

令和6年度 江戸川区立南葛西第二中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	国際社会に貢献できる人間の育成を目指して ・人権を重んじ自他を敬愛する(礼儀) ・自主自律の習慣を身に付け将来を目指して自己実現を図る(自律) ・心身を鍛え、個性の発揚を図る(自律) ・所属社会の向上と環境改善を目指して着実に努力する(開拓)	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	(生徒も、保護者も、地域も、教職員も)互いを大切に、自他(そして社会)の目標達成のために、ともに高めあえる学校 心豊かで思いやりのある、国際社会に貢献し、自律・礼譲・開拓の精神をもって活躍できる生徒 働き方改革を意識する教職員 生徒に範を示すことを意識する教職員
前年度までの本校の現状	成果 ○落ち着いた学習環境を整備・維持するとともに、機に応じて生徒の主体的な活動場を企画運営することができた。 ○いじめや問題行動等の未然防止・早期発見・早期解決に寄与する組織的な指導体制が推進できた。 ○特別支援教育への共通理解のもとに、個々の生徒の困り感に応じた個別指導が円滑に実施できた。	課題	○生徒の学習活動に取り組む姿勢は一定程度整っているが、各種学力調査におけるC層・D層にあたる生徒の割合が引き続き区平均を上回っていること。 ○やむを得ず登校できない生徒の割合が10%を超えており、中長期化を防ぐため、個々の学習支援に加え、関係機関との連携体制を一層整備すること。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	◎「誰一人取り残さない学方向上アクションプラン」の実効性を高めるために… ○全授業での「目標・めあて」の明確化を行う。 学習機会の確保・充実 ○改課後補習教室「学カアップへのトライ」 ○定期考査直前質問教室等の補習機会：年間延べ60回	学力調査におけるC層・D層の生徒の割合50%以下。 学習意欲に関する項目の肯定的意見が都平均を上回る。	C	C	C	国調査の正答率では国語で都より10%、国より7.1%、数学でそれぞれ12%、7.5%下回る結果であり、対策が急務である。	C	学力調査の結果に一喜一憂せず、個々の生徒の学力の向上に期待している。					
	○読書科の更なる充実	◎調べ学習・探究的な学習等を通じた自ら学ぶ機会の充実 ○タブレット端末の利用促進：総合・読書科での活用推進 ○ピポパバトルの実施	・読者90名の充足率80%、出席率80%以上 ・質問教室・補習事業等参加者：1生徒平均5回以上の参加 ・タブレット端末を活用した生徒成長物制作年間2名以上 ・生徒一人あたり貸し出し冊数：前年比10%増	C	B	C	参加申込者は76名と84.4%の充足率である。その出席率は60%~70%程度にとどまっている現状がみられる。	B	学習習慣の定着は長年の課題。学習機会の確保が大切なので、推進してほしい。					
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	◎個々の体力と健康を定着するため、保健体育科での補強運動を毎時間実施する。	・補強運動の各授業での実施により、体力調査において都平均との各項目の差を5ポイント以内とする	B	A	B	体育の授業で体力向上を意識した取組を着実に実施している。体力テストについても適切に実施できた。	B	運動会等では、生き生きと活動する姿が見られた。コロナ禍での運動不足の解消につながっていると感じる。					
		○身体を動かし、運動を愛好する習慣を育むため、休み時間等に場の設定を行う。	・生徒アンケート等におけるスポーツへの意識関心に関する項目の肯定的評価80%以上	B	B	B	「健康に過ごすために、学んだことを普段の生活に役立てているか」への肯定的回答は72%である。さらに向上させたい。	B	休み時間によく身体を動かしていると聞く。場の設定は重要。					
		○運動部活動の取組充実 生涯にわたるスポーツへの興味関心を意識させる	・運動部活動所属者におけるスポーツへの肯定的評価80%以上 ・運動部活動所属者の安定的な参加90%以上	B	B	B	運動部活動については、部員数の減少が顕著である。サッカー部については連合部活動・外部団体所属者を受け入れた。	B	設置部活動の減少や部員数の減少は残念。外部指導員等は、時間の制約が厳しい。					
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザイン等の視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	◎生徒自らが広く共生社会の実現を目指す力を育むため、校内委員会等の機能強化を図る。	・アンケートにおける共生社会の実現に関する設問の肯定的評価80%以上	B	B	B	「特別支援教育を適切に行っている」には有効回答の77.6%の肯定的回答を得たが、「わからない」との回答が目立つ。	B	以前より落ち着いた印象がある。先生方の地道な取組によるものと考えられる。					
	○エンカレッジルームの活用促進	◎心を落ち着け、学習活動に向き合える場の設定を行い、列室指導の充実を図る。	・別室指導の実施による集団行動への復帰生徒を対象生徒の80%以上とする	B	B	B	別室を利用する生徒は一定数いるが、人的配置については検討課題。関係機関・サービスの利用も増えつつある。	B	別室指導については、利用者以外は気づかないことも多いと思う。より良い方向に進むことを期待。					
	○副籍交流、交流及び共同学習の実施充実	◎副籍交流等における交流の充実と連携の深化に加え、生徒がその価値に気づく取組を実現する。	・副籍生徒の交流(直接・間接)を学期1回以上実施 ・副籍生徒が来校時に、本校生徒と交流する場を設ける	B	B	B	本年度の副籍交流は間接交流が中心ということとなった。直接交流の機会があった際には、場の設定を行う。	B	共生社会に向けて、学校から働きかけていくのもよい。					
不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	◎生徒がよりよく生きていくための様々なスキルや思考力・判断力を身に付けるための指導助言を充実させるため、以下の取組等を実施する。	・いじめ継続件数→0 ・登校できない生徒数→前年比50%減 ・SNSに起因するトラブルの未解決数→0	B	B	B	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思おう」に対して肯定的な回答は95.2%と、都平均を上回っている。	B	以前に比べると、落ち着いた印象がある。SNSでのトラブルなどは心配。					
	○hyper-QUの活用等	◎幅広く生徒の情報を共通理解するための校内委員会 ○不登校対策コーディネーター・不登校対応巡回教員との連携 ○教育相談機能の強化	・アンケートにおける学級集団に関する設問の肯定的評価80%以上	B	B	B	hyper-QU等の調査結果を受けて、各生徒の情報共有とフォローについて校内委員会で共有して取り組んでいる。	B	調査の結果を生かすことが重要。良い方向に進むように期待。					
	○教育相談の強化	◎SC・SSW・巡回教員等とのつながりを有しない不登校傾向生徒ゼロ	・SC・SSW、巡回教員等とのつながりを有しない不登校傾向生徒ゼロ	B	B	B	校内委員会での情報共有を生かし、SSW・巡回教員・SCと担任の共通理解のもと、働きかけを強化することができている。	B	当該の生徒や保護者以外には知られにくい面もあると考える。					
学校(園)開かれた地域社会の実現	○学校ホームページの充実等による広報活動の推進	◎生徒に・保護者に・地域に・教職員に魅力ある学校づくりのため、本校の実態を積極的に発信。 ○ホームページ等による情報発信を充実する。	・保護者による学校評価アンケート：肯定的評価80%以上 ・ホームページの更新を週3回以上実施し、学校の取組の広報に努める。	A	A	A	保護者アンケートでの「情報発信を適切に行っている」への肯定的評価は95.1%であり、一定の評価を得ている。	A	情報発信は適切に行われている。生徒の良さが伝わるよう、引き続き広報に期待する。					
	○学校関係者評価の充実	○授業参観機会の提供・保護者による学校評価アンケートの実施・学校評議員会の充実	・保護者アンケート回答率75%以上、その肯定的回答80%以上	B	B	B	保護者アンケートの電子化をおこなったが、回答率は40%台にとどまる現状がある。肯定的回答はおおむね80%を超える。	B	小学生に授業や生徒の実際をもっと見せるとよいのかとも思う。アンケートの回答率は課題。					
教育の特色ある展開	○働き方改革の推進	・ライフワークバランスの推進を通じて、定時外在職等時間を削減できる業務の精選を行う。	・定時外在職時間80時間以上を3か月連続する教員0名	C	B	C	江戸川区の基準を超過し、要受診とされた教員が2名あった。引き続き「働き方改革」を推進していく。	B	熱心に働いていることを示しているところもあると思うが、健康には留意してほしい。					
	○江戸川区教育課題実践推進校としての研究推進 ○教員研修の実施	・校内研修を「魅力ある学校づくり」生徒の姿を視点として実施する。 ・若手教員に対する「メンター」による、継続的なテーマを設けた指導の実施。	・生徒アンケート・保護者アンケート「魅力ある学校」の肯定的評価90%以上 ・研究発表会を開催、参加者100名以上。 ・若手教員の指導力向上による、校内での研究授業実施数の25%増	B	A	B	保護者アンケートでは、「本校の教育活動全般に対する満足度」への肯定的回答は76.5%であった。	B	江戸川区教育課題実践推進校・「クラス1クラス制」の取組に地域も期待している。					
				A	A	A	メンターを指定した若手教員対象の研修会を新たに設定し、計画通り推進している。	A	世の中ではなかなか教員に対する風当たりがある報道もあるが、生徒のために自信をもって取り組んでほしい。					